

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

長野県 安曇野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	70.36	98.99	3,080	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
98,099	331.78	295.67
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
97,027	150.54	644.53

**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率、流動比率が良好な数値であり、健全な経営状況にあるといえる。  
一方で、施設利用率に比べて有収率が低く、効率性に課題があるといえる。施設利用率が高くて、有収率が低水準にある場合、収益につながらないこととなる。対策として、平成27年度より有収率の低い地域から漏水調査を行っており、今後も漏水管の修理や老朽管布設替工事を実施し、有収率の向上を図っていく。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率が年々上昇している。平成30年度は、更新時期の過ぎている水源施設の調査、診断を実施し、診断結果を基に更新計画を立てる。  
管路の老朽化を示す指標は高い値ではないが、経年劣化した管が漏水の原因にもなっているため、「安曇野市水道ビジョン」で推進する管路の更新を計画的に行っていく。

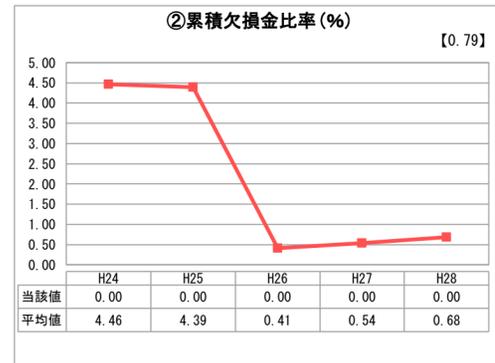
### 全体総括

安曇野市では、平成28年度に事業経営の収支バランスがとれた中長期計画「安曇野市水道ビジョン」を策定した。主な計画事業は、有収率向上のための漏水対策の推進、投資計画に基づく老朽管の更新及び施設の耐震化などである。現在の健全な経営状況を今後も継続するために、ビジョンに基づくこれらの事業を実施していく。

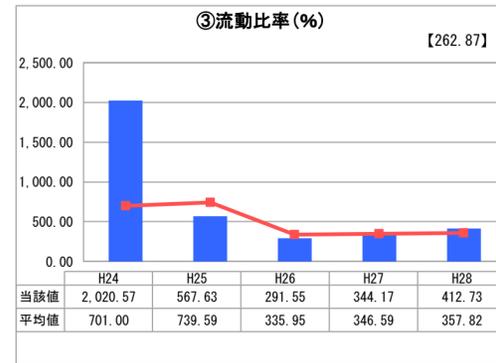
## 1. 経営の健全性・効率性



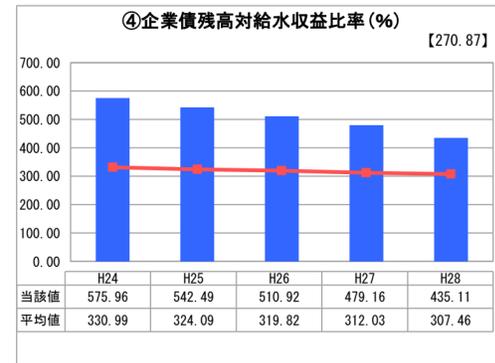
「経常損益」



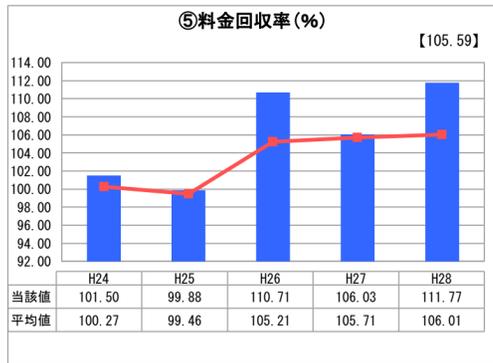
「累積欠損」



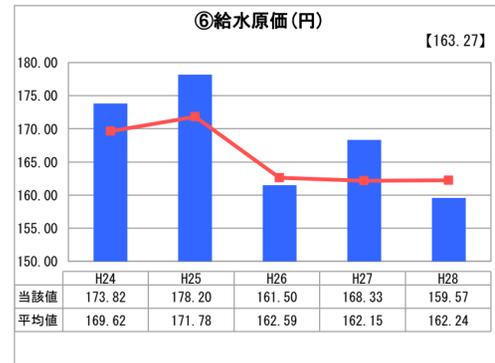
「支払能力」



「債務残高」



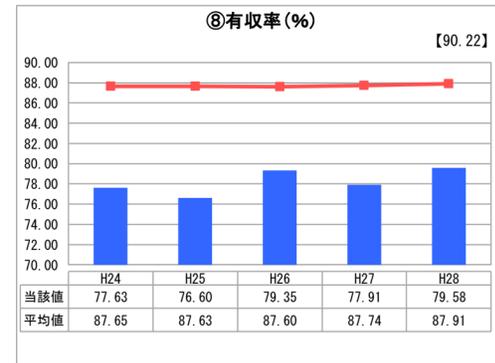
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

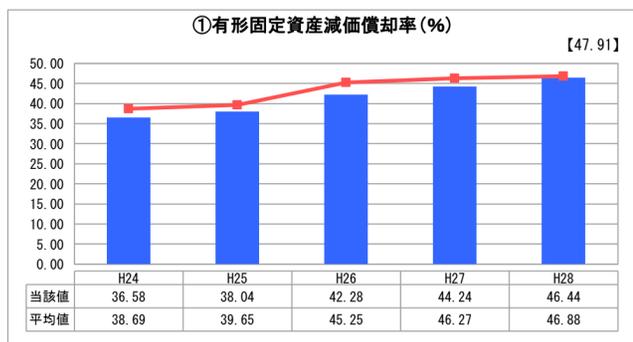


「施設の効率性」

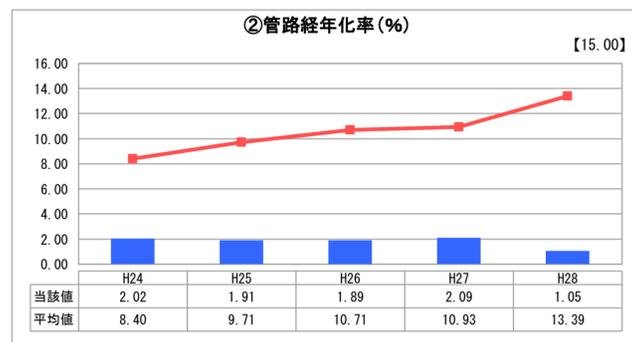


「供給した配水量の効率性」

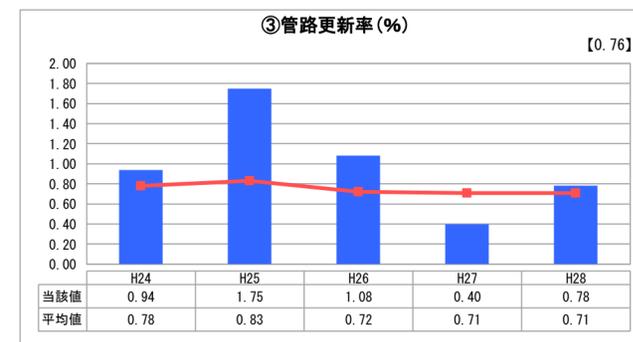
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

長野県 安曇野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	47.41	81.65	100.00	3,888

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
98,099	331.78	295.67
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
80,032	27.90	2,868.53

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成28年度全国平均

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

安曇野市下水道事業は、平成28年度から地方公営企業法適用事業へ移行した。経営収支比率は類似団体と比較しても良好な数値であり、健全な経営状況にあるといえる。一方で、経費回収率は低く、使用料収入だけでは汚水処理費を賄っていない状況である。一般会計からの繰入金で収入不足を補っている。また、汚水処理原価も類似団体より高くなっている状況から、水洗化を促進し、有収水量を増加させることも行わなければならない。よって今後の対策として、水洗化率の向上による使用料収入の増加につなげ、さらなる経営の健全化を図っていく。

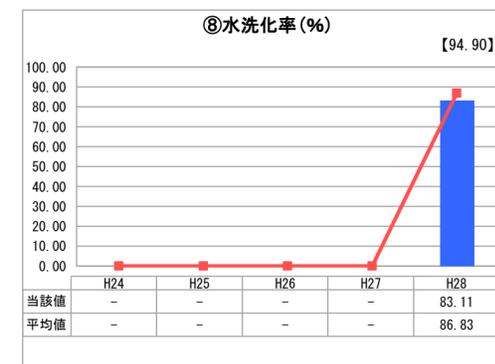
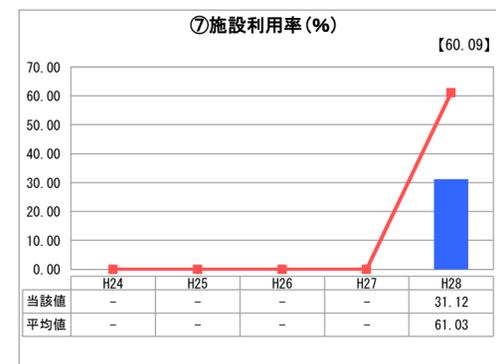
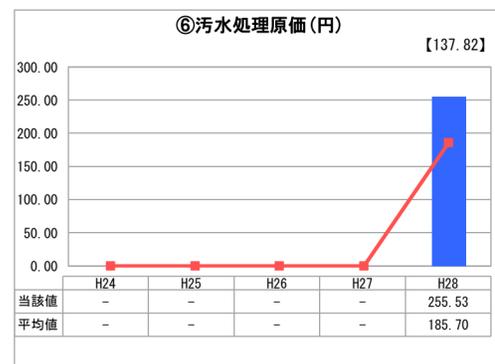
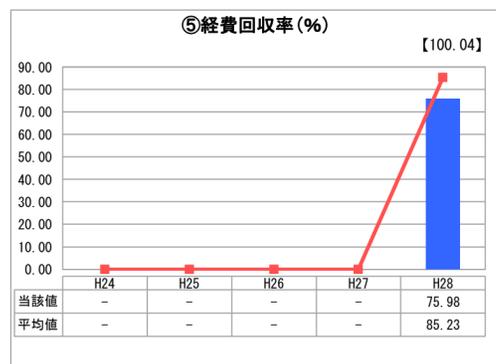
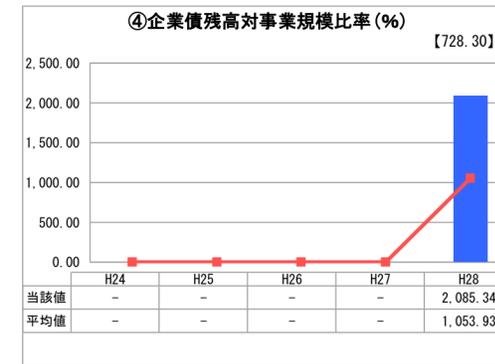
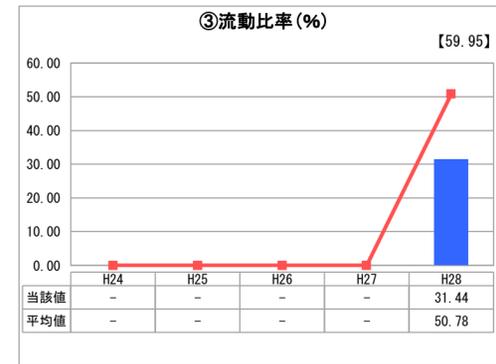
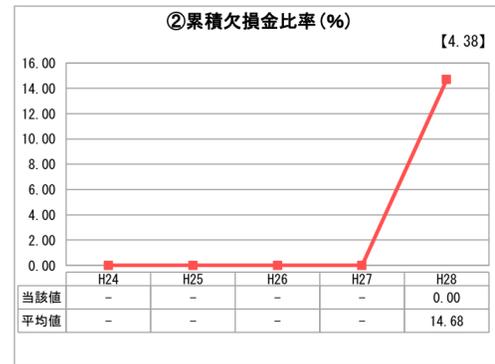
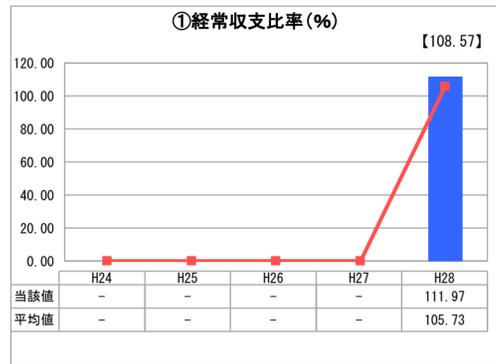
### 2. 老朽化の状況について

安曇野市は供用開始から20年しか経過していないため、老朽化を示す指標は非常に低くなっている。管渠改善率は、ほ場整備に伴う大規模な布設替えによりマイナスとなっている。今後は「安曇野市下水道事業経営戦略」に基づく計画的な修繕や維持管理により、施設の延命化を実施していく。しかし、整備工事を集中して行っていることから、将来的に更新時期が集中されることが想定されるため、現在は延命化等の対策のため計画的にカメラ調査や適正な維持管理を行うことを実施している。

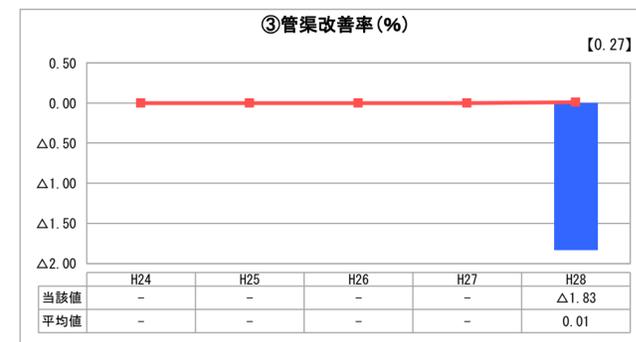
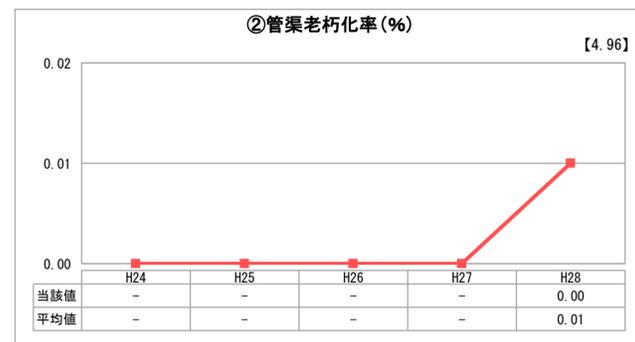
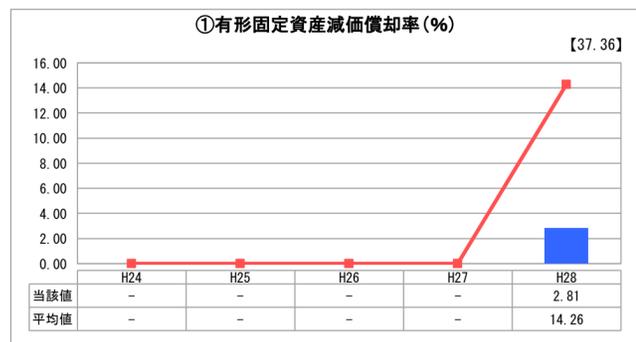
### 全体総括

平成28年度に中長期的な経営の基本方針となる「安曇野市下水道事業経営戦略」を策定した。今後はこの計画に基づき、事業を遂行していき、水洗化率の向上、施設の長寿命化のために適正な維持管理を確実に行っていき、健全で持続可能な経営を図っていく。

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。  
 ※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

長野県 安曇野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	44.84	7.75	100.05	3,888

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
98,099	331.78	295.67
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
7,599	3.00	2,533.00

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	平成28年度全国平均

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

安曇野市下水道事業は、平成28年度から地方公営企業法適用事業へ移行した。経営収支比率、経費回収率が類似団体と比較しても良好な数値であり、健全な経営状況にあるといえる。

一方で、水洗化率が低く、使用料収入だけでは汚水処理費を賄っていない状況である。一般会計からの繰入金で収入不足を補っている。

また、汚水処理原価が高くなっている状況から、水洗化を促進し、有収水量を増加させることも行わなければならない。

よって今後の対策として、水洗化率の向上による使用料収入の増加につなげ、さらなる経営の健全化を図っていく。

### 2. 老朽化の状況について

安曇野市は供用開始から20年しか経過していないため、老朽化を示す指標は非常に低くなっている。平成30年度まで管渠の整備を予定していることから、管渠改善率は類似団体と比較しても高い数値となっている。

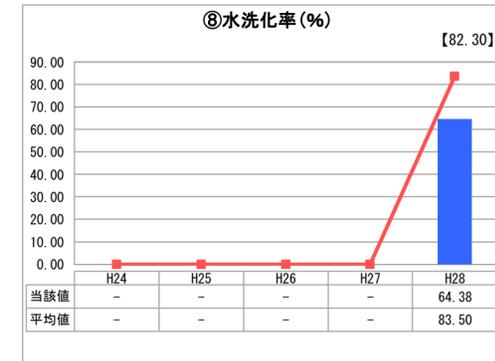
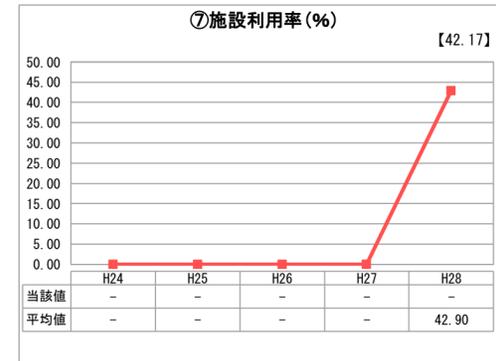
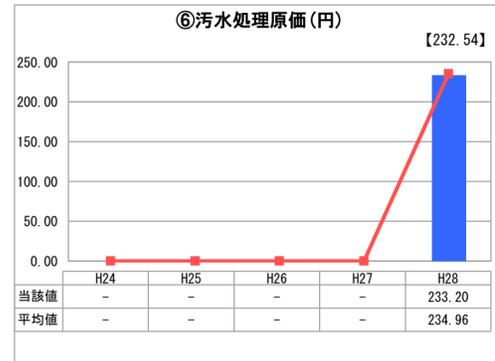
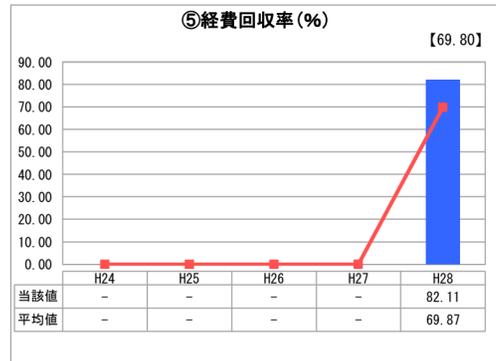
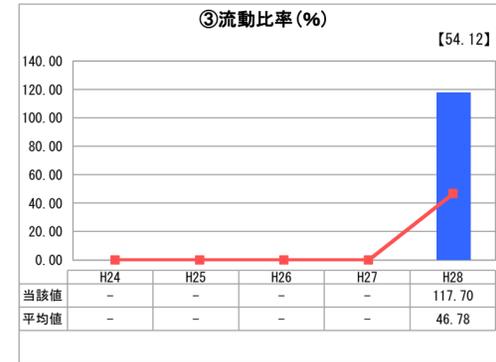
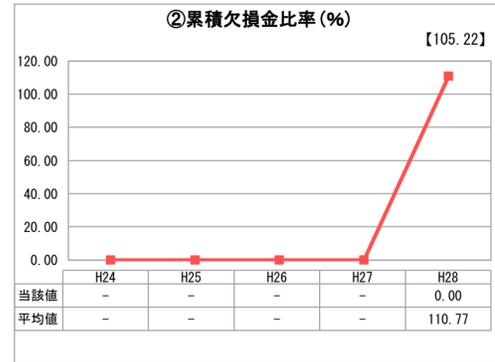
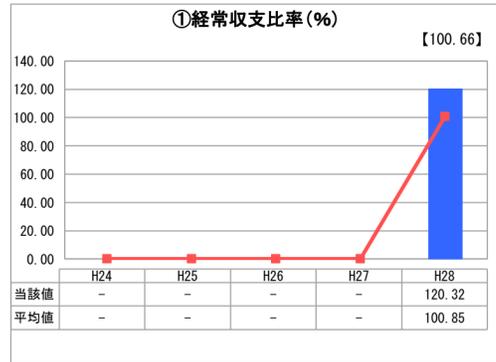
今後は「安曇野市下水道事業経営戦略」に基づく計画的な修繕や維持管理により、施設の延命化を実施していく。

しかし、整備工事を集中して行っていることから、将来的に更新時期が集中されることが想定されるため、現在は延命化等の対策のため計画的にカメラ調査や適正な維持管理を行うことを実施している。

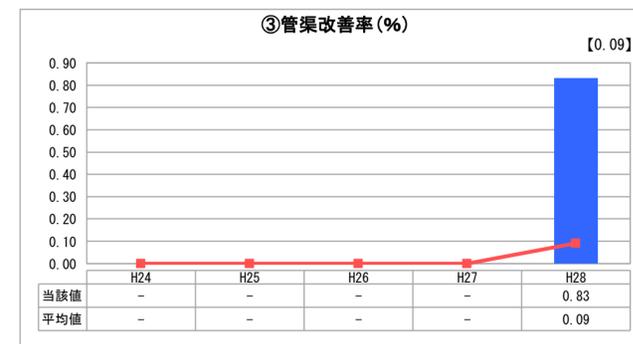
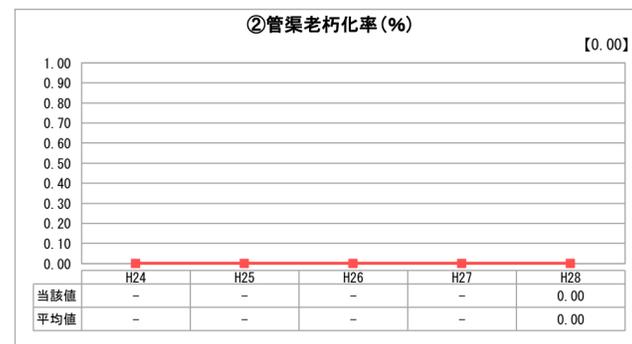
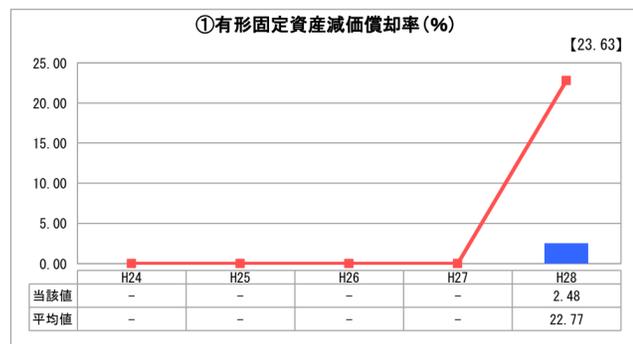
### 全体総括

平成28年度に中長期的な経営の基本方針となる「安曇野市下水道事業経営戦略」を策定した。今後はこの計画に基づき、事業を遂行していき、水洗化率の向上、施設の長寿命化のために適正な維持管理を確実に実行していき、健全で持続可能な経営を図っていく。

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。  
 ※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

長野県 安曇野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	59.47	2.97	91.14	3,888

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
98,099	331.78	295.67
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,914	0.91	3,202.20

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成28年度全国平均

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

安曇野市下水道事業は、平成28年度から地方公営企業法適用事業へ移行した。経営収支比率は類似団体と比較しても良好な数値であり、健全な経営状況にあるといえる。一方で、経費回収率は低く、使用料収入だけでは汚水処理費を賄っていない状況である。一般会計からの繰入金で収入不足を補っている。また、人口減少により汚水処理量が減少しているため、施設利用率が低くなっている。今後は、汚水処理の効率化を図るべく、区域の見直しや施設の統廃合について調査・検討を進める。

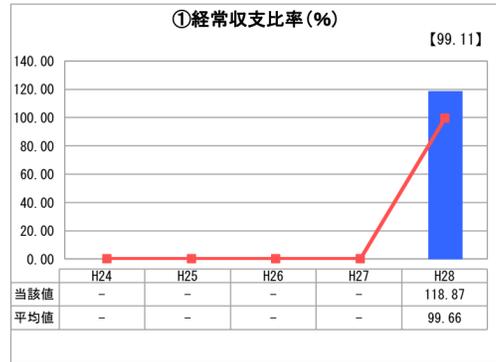
### 2. 老朽化の状況について

安曇野市は供用開始から20年しか経過していないため、老朽化を示す指標は非常に低くなっている。今後は「安曇野市下水道事業経営戦略」に基づく計画的な修繕や維持管理により、施設の延命化を実施していく。しかし、整備工事を集中して行っていることから、将来的に更新時期が集中されることが想定されるため、現在は延命化等の対策のため計画的にカメラ調査や適正な維持管理を行うことを実施している。

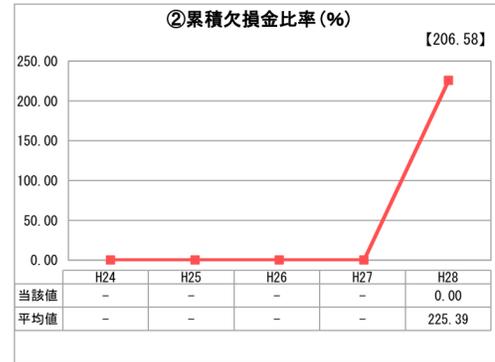
### 全体総括

平成28年度に中長期的な経営の基本方針となる「安曇野市下水道事業経営戦略」を策定した。今後はこの計画に基づき、事業を遂行していき、施設の長寿命化のために適正な維持管理を確実に行っていき、健全で持続可能な経営を図っていく。

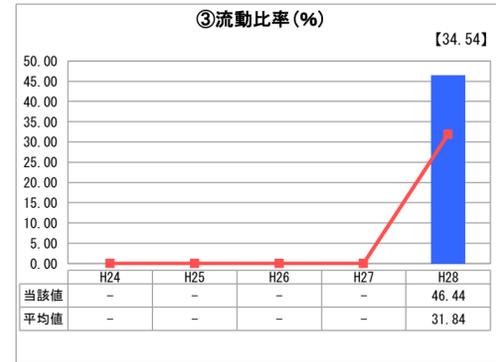
## 1. 経営の健全性・効率性



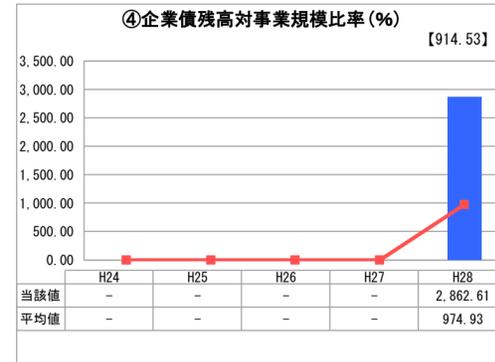
「経常損益」



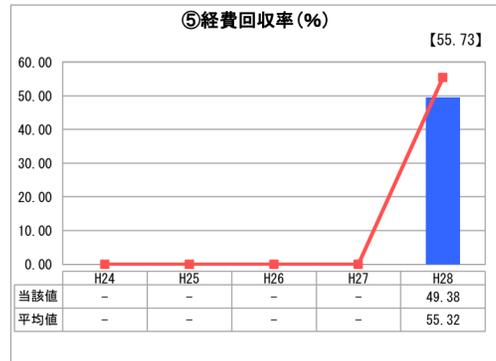
「累積欠損」



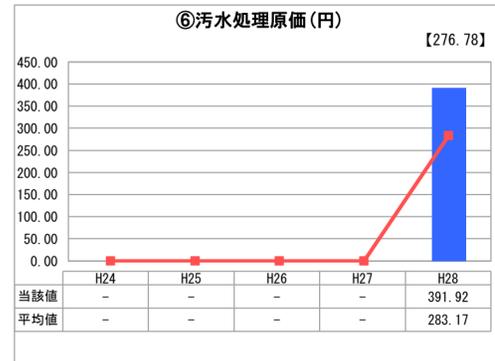
「支払能力」



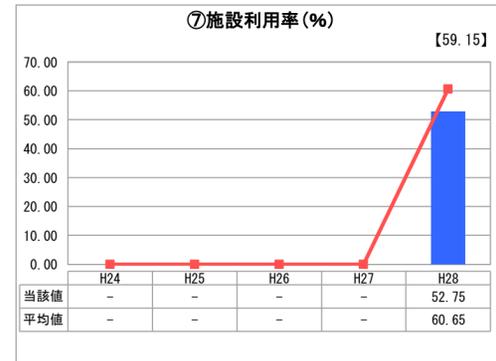
「債務残高」



「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

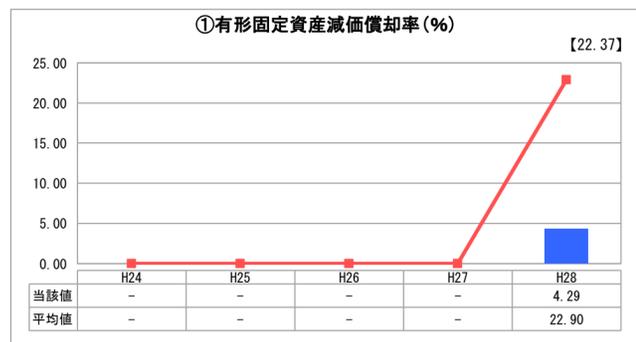


「施設の効率性」

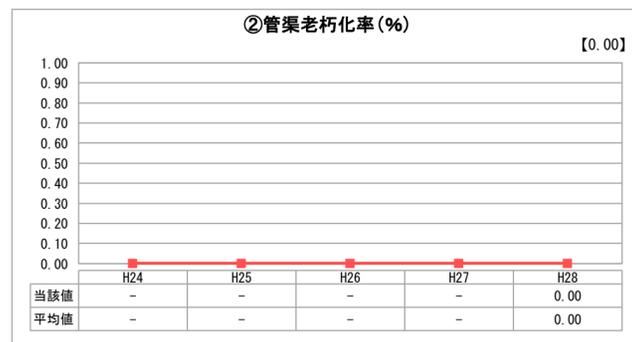


「使用料対象の捕捉」

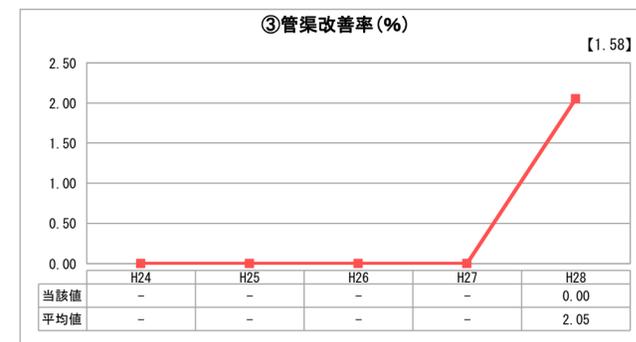
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。  
 ※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

長野県 安曇野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	61.51	0.07	100.00	3,888

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
98,099	331.78	295.67
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
69	0.02	3,450.00

**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

安曇野市下水道事業は、平成28年度から地方公営企業法適用事業へ移行した。経常収支比率、経費回収率が類似団体と比較して良好な数値であり、健全な経営状況にあるといえる。

一方で、経費回収率は高いものの、合併浄化槽の経年劣化による修繕費が増加している。水洗化率100%となっているが、今後も人口の増加は見込めないため、一般会計からの繰入金で経営を支えていく状態となる。

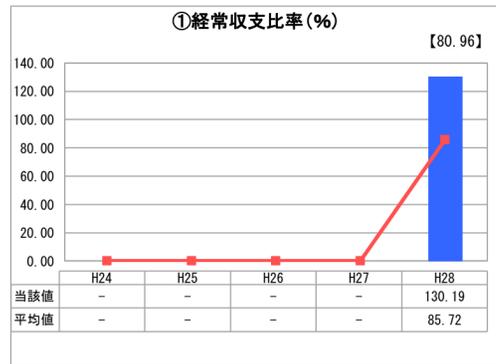
### 2. 老朽化の状況について

設置から13年ほどしか経過していないため、老朽化率は進んでいない。

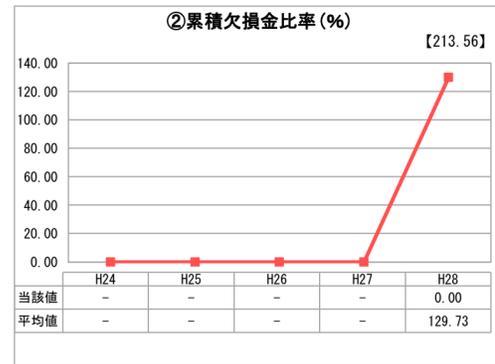
### 全体総括

合併浄化槽については適正な維持管理に努めながら、個人設置型の合併処理浄化槽との公平性を考慮し、施設の払い下げ等も検討していく。

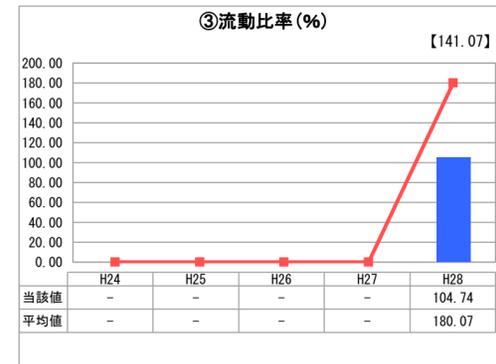
## 1. 経営の健全性・効率性



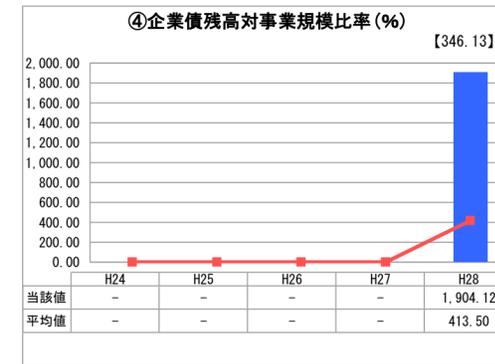
「経常損益」



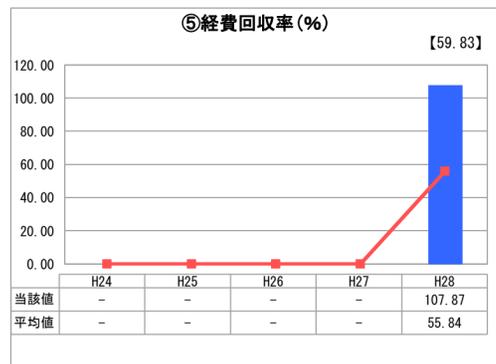
「累積欠損」



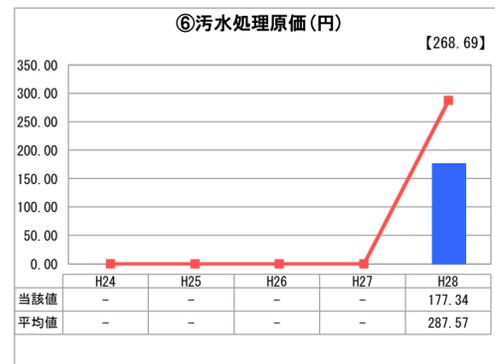
「支払能力」



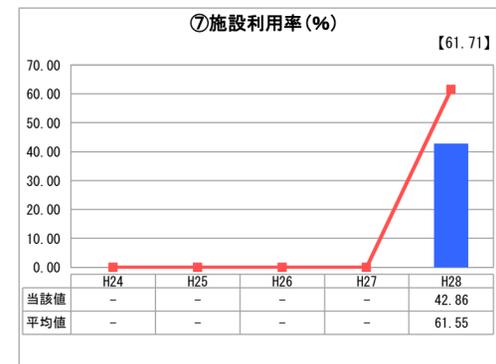
「債務残高」



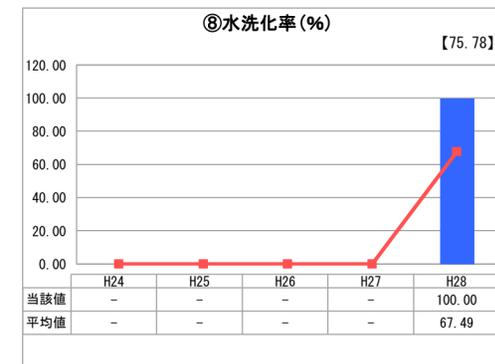
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

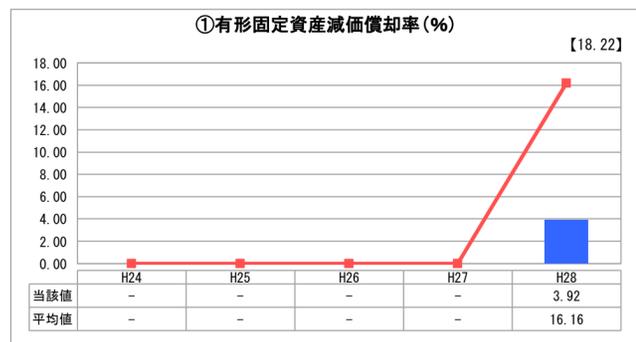


「施設の効率性」

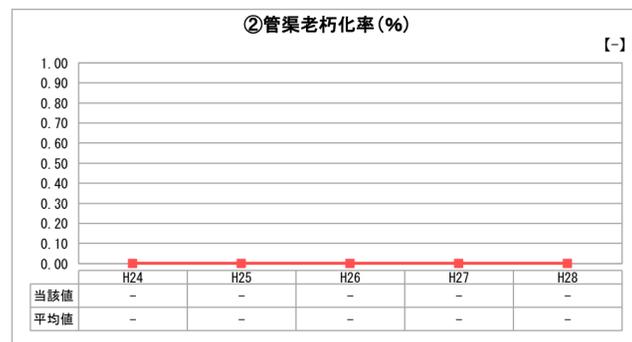


「使用料対象の捕捉」

## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。  
 ※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。